

フジミドリシジミ *Shibatanoiozephyrus fujiisanus* (Matsumura)

【選定理由】

愛知県では、1971年に豊田市（旧稲武町）で初めて記録された。本種は、ブナ・イヌブナ林に依存して生息する。本県の場合、食樹のブナ・イヌブナが生育しているのは長野県境に接する豊根村（旧豊根村・旧富山村）・設楽町（旧設楽町・旧津具村）・豊田市（旧稲武町）の一部に限られるため、本種の生息地も限られ、その個体数も決して多くはない。かつて多数飛翔していた面ノ木峠や段戸裏谷周辺でもブナの減少、特に産卵に適した低木やひこばえの減少などのため、産卵数や成虫の発生数が顕著に減少している。

【形態】

前翅長は18mm程度。裏面の斑紋は♂♀の大差はない。♂の表翅は金属光沢のある青色、♀は一般的な暗褐色で斑紋がない。裏面の斑紋が特異であることにより容易に近似種とは区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧稲武町、旧足助町）、設楽町（旧設楽町、旧津具村）、豊根村（旧豊根村、旧富山村）などのブナ・イヌブナ林に生息する（高橋昭ほか、1991；大曾根、2005；故田中蕃、私信）。本県では、ブナ・イヌブナ林が少ないため本種の分布も極めて限られている。なお、豊田市（旧旭町）牛地の駒山のブナ生育地を1999年に調査しているが本種を確認できなかった。

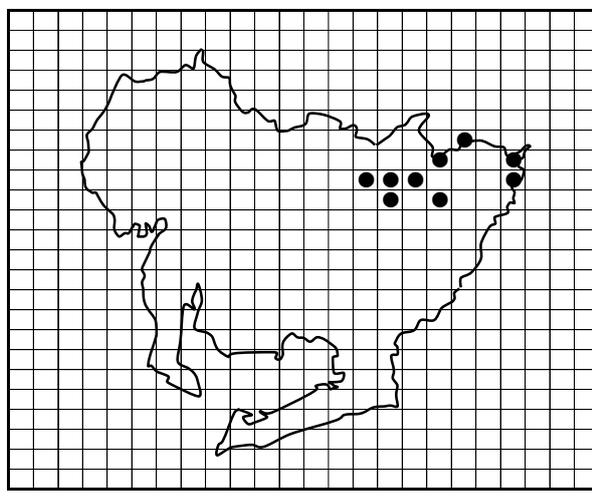
【国内の分布】

北海道（渡島半島や奥尻島など）、本州、四国、九州に分布する。山地に産するが、個体数は少ない。九州では、ブナ・イヌブナの生育する山地帯に産地がある。

【世界の分布】

日本固有種である。なお、台湾北部と中国（陝西省・四川省・貴州省）には、本種の代替関係にあるとされている種が発見されている（小岩屋、2007）。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

年1回、6～7月に発生する。本県では、高標高地のブナ・イヌブナ林で6月中旬頃に発生盛期が認められる。生き残りの♀は8月下旬まで観察される。

♂は午後になると樹上で占有行動をとる。また、早朝にブナ林をうねるように飛翔する♂も見られる。卵で越冬する。成虫の大きさに比べて卵は大きく白いのでよく目立つ。

【現在の生息状況／減少の要因】

かつて食樹が多数生育していた面ノ木峠・天狗棚・段戸裏谷周辺は遊歩道の整備により、また、旧富山村などは伐採や植樹により本種の生息環境が変化し、産卵数や個体数が減少している（大曾根、2005）。その他の地区でも混交林の繁茂が進み個体数が減少している。

県外近隣の産地として、三重県鈴鹿山脈の御在所岳以北、岐阜県では、旧上石津町・揖斐郡北部・恵那山麓、清内路峠などで記録がある。

【保全上の留意点】

生息地の混交林を含めた定期的な間伐などが必要である。本種に代表されるブナ林の生態系は本県では限られた地域にしか残存していないので、可能な限り生態系をより広く維持・管理することが望まれる。

【特記事項】

早朝や強風のあと、多数の個体が下草に止まっていることがある。

【引用文献】

- 高橋 昭ほか、1991. 愛知県のチョウ類. 愛知県の昆虫, (下): 21-95. 愛知県.
小岩屋 敏, 2007. 182. フジミドリシジミ. 世界のゼフィルス大図鑑解説編: 283-284. むし社, 東京.
大曾根 剛, 2005. 愛知県のフジミドリシジミの分布資料. 佳香蝶, 57 (223): 41-43.

【関連文献】

- 白水 隆, 2006. フジミドリシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 107. 学習研究社, 東京.
佐藤純彦, 1972. 愛知県北設楽郡でフジミドリシジミを採集. 佳香蝶, 24 (90): 4.

(2009年版を一部修正)